

令和7年度 第3回八幡地域協議会会議録（概要版）

日 時 令和8年1月14日（火）午後6時30分～午後8時00分
場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室
出席者 13名
1号委員 池田 義則、池田 洋、佐々木 慶則、佐藤 敬二、小松 茂、
遠田 修、後藤 桂子、池田 修、加藤 隆子、御舩 浩弥
2号委員 信夫 効次、高橋 知美
3号委員 池田 香
欠席者 2名
1号委員 島井 里美、小野 良文

八幡総合支所 支所長 齋藤 春樹、支所長補佐 齋藤 理博、門田 光弘、加藤 裕昭

議事日程 1 開 会
2 会議録署名委員の指名
3 会長あいさつ
4 協議
市長報告会の提言案件について
5 その他
6 閉 会

【協議の概略及びその結果】

今回は、令和7年度の市長報告会の提言案件について協議を行った。協議の中で委員から出された意見を取りまとめ、集約した案件を市長に報告することにした。

1 開 会

○小松副会長開会

2 会議録署名委員指名

○副会長 委員名簿の順番に指名しているので、委員名簿3番の島井里美委員欠席のため、4番の佐々木慶則委員にお願いをする。

3 会長あいさつ

○信夫会長あいさつ

4 協 議

○議長 「市長報告会の提言案件について」

協議の前に、前回の地域協議会で委員から受けた意見について説明。

＜ 事務局 説明 ＞

・前回の地域協議会で委員から受けた意見について要約して説明。

○議長 新たな話題となるが、先の12月31日までの1年間の八幡の出生数を皆さんはご存じだろうか。4人だ。その前年は7人だ。今年1年はどうなるのだろうか。

これまでの地域協議会では話題にならなかったが、地域でできることはないかもしれないが、行政、社会に提案する必要があるのではないだろうか。皆さんからのご意見をいただければと思う。

○池田義則委員 どうすればよいのか、わからない。

○池田洋委員 難しい。

○佐々木委員 住宅を無償で提供するといった、思い切った移住対策が必要であろう。

○池田義則委員 成功事例はないだろうか。

○佐々木委員 情報を集めて視察に行くのがよい。

○佐藤委員 自然が好きで移住といっても、都市部から極端に離れていない場所が多いのが実情であろう。

○遠田委員 大沢は来年小学生が0人になってしまう。雪国というハンディキャップは大きい。旧酒田でさえも少なくなっている。

○後藤委員 40代独身男性でも、あまり結婚したいという気持ちがないのではないだろうか。どうしたらよいか、わからない。

○池田修委員 人口ピラミッドを見ればわかることで、手遅れで対応が遅すぎる。合併後に施設の建て替えが中心市街地で多く行われた。三川町のように雇用と子育てに力を入れるべき。日向ではバスもなくなり学童の送迎を祖父母に頼っている。若い世代が流出してしまった。大江町は地元産材住宅への支援で産業振興と人口増を図った。

○加藤委員 マッチングアプリを市全体で活用して、住宅支援、子育て支援について大々的に、人々が飛びつくように、恩恵を受ける人が少なくならないよう、目立つように市で考えていくべき。

○御船委員 通勤距離の遠さ、除雪のわずらわしさなどが旧酒田への転出に繋がっている。交通費用支援など、その点への対策が必要であったと思う。これ以上流出しないようにすることが先決と考える。農業に関しては米価が上昇し仕事として成り立つようになったと思う。空き家への移住や、転出したが戻ってくるなど、良い影響に繋がればよいと思う。

○高橋委員 八幡には放課後に子供たちが室内で遊べる場所がない。旧酒田までの送迎は難しい。冬季は特にだ。子供だけで利用出るような移動支援を検討できないだろうか。空き家利用希望者支援においては、紹介物件の少なさへの対応が必要と考える。空き家紹介のホームページについては、先が具体的にイメージできて住みたくなるような支援の対応が必要と考える。

○池田香委員 市に要望しても税政面から実現は難しい。少子化と生産年齢人口減、全体の人口減であることが要因の一つだ。結婚を希望しない世代の考え、結婚を想定した場合について女性が考える負担感、教育費、介護のための離職など不安は大きい。婚姻、出生、

移住の各数増に関する得策はないが、市への要望については、地域でお金が儲かる方法を考えて実現に向かうのがよいと考える。ヨーグルト工場、ゴルフ練習場の増設、グラウンドゴルフ場を活用した収入増がよいと考える。

- 議長 市長報告会では提言までは至らなくても話題提供として、このままでは地域がなくなってしまうことを話したい。
 - 支所長 北海道東川町は人口の6割が移住者とのことである。PRのターゲットを東京圏にしていることが要素としてはあるのかもしれない。旭川に近いという点もあるかもしれない。また、移住体験施設の策も功を奏しているかもしれない。
 - 議長 移住者への支援を手厚くし、納税で収入を得ていくという考え方もある。
 - 池田香委員 婚活についてだが、イベントをしても女性が少ないこと、男性は話ができないことがうまくいかない理由。男性に関しては服装についてなどコーディネーターが必要である。話題の作り方なども含めた支援がないと失敗してしまう。
 - 議長 他に市長への提言はないだろうか。
 - 佐々木委員 何事に対しても市からは情報を流してもらいたい。自分も含め知らないこと、知らなかったことが多いと思う。
 - 池田香委員 クルーズ船観光について例を挙げれば、オプション予約していないフリーの旅行者に声掛けをし、バス送迎して買い物をしてもらってはどうか。雪に関する体験などでもよいかと思う。
 - 佐々木委員 ドローンを活用した写真によるPRもよいと思う。
 - 支所長 北海道東川町では高校生を対象にした写真甲子園による町おこしをしている。
 - 高橋委員 子供に係るものは親もついてくるのでよい。
 - 池田香委員 飛島のコスプレのイベントもよい例と考える。
 - 議長 市長への提言について、皆さんに確認してもらいたい案がある。事前に事務局と考えた案であるが、八幡地域の最大の魅力である「鳥海山」という自然資源を活用した観光やレクリエーションの拠点としての鳥海高原家族旅行村に係る提言を挙げたい。また、八森自然公園、そして地場産業（特産品）においては、生乳加工品としてのヨーグルトに係る提言も挙げたい。旅行村の施設は、小学校の自然教室でも活用されているが、老朽化への対応が課題となっている。八森自然公園はゴルフ練習場について利用状況の変化に応じた打席数増の検討も必要と考える。ヨーグルト工場は3セクの重要な資産であるが、市の資源でもあるという認識で増設の事業化などの面への支援の在り方について積極的な推進をお願いしたい。さらに、「鳥海山」はジオパークでもあるが、本市を代表するジオサイトである玉簾の滝へのジオツーリズムに対応した施設整備など、世界ジオパークに向けた推進をお願いしたい。
- 二つ目として、防災ラジオに代わり、地区を限定して個別受信機を再配備することについての早期検討の必要性を挙げたい。地域に特化した情報を得られるシステムへの再検討をお願いしたい。
- 皆さんからは、これに足したほうがよいと思える案をいただきたい。
- 加藤委員 人口減少について挙げるべき。

- 池田修委員 家族旅行村については、冬季の魅力を活用した経営、SNSを活用したPRを望む。また、修繕で長期の休みの時は、登り口前など、ある程度の距離前での看板の設置でその旨を知らせたほうがよい。
- 遠田委員 車を持たない大学生が登山口まで来られるような交通も必要。
- 池田修委員 クマ、イノシシ対策についても挙げてもらいたい。協力隊でハンター募集やジビエの件など。
- 議長 どんぐりが豊作であっても、アーバンベアの問題もある。市長には少子化とクマの問題についても付け加えて話をしたいと思う。ほかの内容についても説明し、資料としても提出したいと思う。後に皆さんにもお知らせしたい。

5 その他

- 議長 その他に移る。委員の皆さんから何かないか。
- 佐々木委員 体育館完成後のイベントが必要であろう。
- 支所長 スポーツ振興課で検討中であろう。
- 議長 支所から本庁への働きかけも必要であろう。自治会長会も交えたほうがよいと思う。

6 閉会

- 小松副会長閉会